

日本グローバルヘルス研究センター  
公衆衛生学修士・看護師 **李 祥任**  
(り・さんいん)

オーストラリアでは、2011年時点で人口の4人に1人が海外出生者であり、5人に1人が家庭で英語以外の言語を使用している<sup>1</sup>。私は、日本で外国人への健康支援に関わった経験から、多文化国家における保健医療について学びたいと考え、大学院の留学先としてこのオーストラリアを選んだ。

2年間の滞在中に、内科・眼科・歯科に至るまで、各専門クリニックを受診する機会があったが、印象に残った点は医師とのコミュニケーションである。医師たちは、日頃からさまざまな国の出身者を診療しているためか、外国人患者への対応に慣れているように思えた。

診察室に入ると、まず名前を名乗ってくれた医師にとっても好感が持てた。どの医師も、患者である私にフレンドリー

由な人でも公共サービスや医療サービスを不便なく受けることができるよう、言語支援が整備されている。

連邦政府は、TIS (Translating and Interpreting Service) Nationalという無料の翻訳・通訳サービスを運営し、国家認定を受けた通訳者が170以上の言語に対応している<sup>2</sup>。医療機関向けには、24時間通訳を提供する電話サービスも設けている。右のポスターは、内科クリニックの受付などで目にしたTIS Nationalの通訳サービスの案内で、英語に加え20の言



翻訳・通訳サービスを多言語で紹介するポスター

©TIS National

## ● 診療を円滑にするコミュニケーション手段 —オーストラリアにおける通訳整備

で気さくな態度で、丁寧に分かりやすく話をしてくれた。内科医の診察を受けた際にも、医師と英語でスムーズに対話できたが、私の聞き慣れない医療用語が出た時には、すぐにコンピューターで和訳した用語を見せてくれて、感心したものだ。

診療における正確な言語的コミュニケーションは、医療従事者と患者間の相互理解と円滑な診療のために不可欠である。うまく成立しないと診療が滞るだけでなく、誤解による誤診も生じかねない。オーストラリアでは、英語が不自

語で紹介されている。こうした一般向けのサービスの広報により、医療機関で患者が通訳を必要とする際に、医療従事者へその活用の判断を一存することなく、患者が利用意思を伝える助けにもなるであろう。

現在、日本には200万人を超える外国人が生活しており、2013年の訪日外客数は1000万人を超える新記録を達成した<sup>3</sup>。この動向に加え、2020年には東京オリンピックも開催される。今後ますます、医療機関でも日本語が不自由な外国人患者の増加が見込まれる

中、医療従事者と外国人患者が不意なく意思疎通でき、安全に医療を提供できるよう、言語支援の整備は急務であろう。

文献:

1. Commonwealth of Australia 2014, The People of Australia, -Statistics from the 2011 Census-, Department of Immigration and Border Protection.
2. Commonwealth of Australia 2012, About TIS National, The Department of Immigration and Border Protection, Accessed 10 September 2014, <<https://www.tisnational.gov.au/About-TIS-National>>.
3. 日本政府観光局 2014, 報道発表資料, 2014年1月17日

李 祥任  
(り・さんいん)

看護師として都内大学病院に勤務後、(認定NPO)シェア=国際保健協力市民の会や独立行政法人国際協力機構(JICA)などで国際保健協力に従事。タイをはじめとする東南アジアにおけるプロジェクトや、日本の外国人への健康支援に関わってきた。2012年オーストラリアで公衆衛生学修士号取得。